

研究機関名：大阪大学

競争的研究費の直接経費からの研究代表者(PI)の人件費支出に係る
活用実績報告書（令和 3 年度）

1. 実施状況

①事業名	②直接経費から人件費を支出した、所属 PI の人数（人）	③所属する PI について、直接経費から支出した人件費の総額（円）	④所属する PI について、直接経費から人件費を支出したことにより確保した財源の総額（円）
【文部科学省】			
原子力システム研究開発事業	1	500,000	500,000
【科学技術振興機構】			
戦略的創造研究推進事業			
さきがけ	11	11,000,000	11,000,000
CREST	6	10,300,000	10,300,000
ACT-X	1	150,000	150,000
創発的研究支援事業	3	1,565,000	1,565,000
ムーンショット型研究開発事業	2	4,000,000	4,000,000
国家課題対応型研究開発推進事業			
光・量子飛躍フラッグシッププログラム（Q-LEAP）	1	1,650,000	1,650,000
研究成果展開事業			
研究成果最適展開支援プログラム（ASTEP）	2	1,500,000	1,500,000
共創の場形成支援プログラム	1	2,000,000	2,000,000
【日本医療研究開発機構】			
革新的先端研究開発支援事業	3	3,850,000	3,850,000
免疫アレルギー疾患実用化研究事業	1	1,000,000	1,000,000
脳とこころの研究推進プログラム（精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト）	1	300,000	300,000
橋渡し研究プログラム	1	2,290,000	2,290,000
合計	34	40,105,000	40,105,000

2. 確保した財源の使途、具体的な活用内容、効果等

- ・直接経費から人件費として支出した額の範囲内で、研究者に対して、給与水準向上の処遇改善を行いパフォーマンスの向上を図った。
- ・論文執筆スキルの獲得や高精度な英語翻訳にかかる支援を行い、研究成果発表における正確さを高めることができた。
- ・高額な設備を共用として整備したことで、効率的な備品の活用とともに、研究活動の促進につながった。
- ・リモート会議等に必要な機材や、ミーティング等に活用できる共用スペースを整備した。これにより、研究打合せなどをスムーズに行うことができ、さらには分野を超えた研究者同士の交流にも役立った。

※ 他の経費と一体的に活用することも可能です。その場合はどのような経費と併せて何の取組に活用したか分かるように記載してください。

※ 必要に応じて参考資料を添付してください。

3. 策定した活用方針や活用実績を公表している研究機関のホームページ等の URL を記載してください。なお、各研究機関における研究力向上に向けた実施事例については、好事例として政府のホームページでも公表させていただく場合があります。

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/research/PIjinkenhi>